

かけだしの頃

今だから話せるゲンバの失敗

あれは入社七年目、私がまだ二十八歳のときですから、今から二十七年前のことでしょうか。

ある都市河川の整備工事で、川幅10mくらいの河川を従来より多くの降雨量に対応できるようにするため、川幅を広げる工事をしていったことです。その工事は、河川の中間部にシートパイルを打って締め切り、石積みの護岸の裏側にも埋殺しのパイルを打ち、その上部にステーピングをかけて、そこから掘削してから床付けする、という大がかりなものでした。

工事が始まって三か月くらい経ったときだと思います。まだ監視カメラなんてない時代ですから、必ず誰かが現場に泊まっていたのですが、その日の泊まり番だった当時の所長から明け方「なにかおかしい」と電話がありまして……。『現場から『ゴーンゴーン』と変な音がする』と言うんです。

あわてて現場に行ってみると、なんと護岸の裏側に埋殺しするシートパイルがヒービングを起こしているじゃありませんか。おそらくシートパイルの根入れ長が足りず、土圧に耐えきれなくなっただと思います。所長が聞いた音というのは、ヒービングで跳ね上げられた鋼材が、河川の上に設置していたステーピングの桁にぶつかっている音だったんです。

朝になって少しずつ状況が見えてきたときには、シートパイルは転倒し、山留材もアメのように曲がって潰れているような状態で、ケガ人こそ出なかったものの、復旧に非常に苦労したのを覚えています。

実はこの工事、施工前に発注者から提示されたシートパイルの根入れ長についての仮設計算結果と、当社で再計算した結果が違っていたんです。もちろん、自分たちで計算した結果を見せて、「根入れ長が足り

三立建設株式会社
工事営業部 T.L

田中 寛

昭和52（1977）年に関口工業株式会社入社。平成20（2008）年に三立建設株式会社に入社、現在に至る。



ないのでは」と伝えてはいたのですが、発注者がコンサルタントに頼んで計算してもらった結果だから「問題ない」というので、最終的に受け入れてしまったんです。どうやら発注者側の調査した場所の土質よりも、施工する現場の土質が柔らかかったことが原因で、計算された根入れ長が実際に必要な長さよりも短くなってしまったみたいなんです。

今考えれば、計算結果に違いが出ていた時点で、再度数ヶ所でボーリング調査を実施するべきでした。その結果をもとに発注者とディスカッションしていれば、根入れ長を長くすることができ、このような事故も起きなかつたんじゃないかと思うと、やはり悔やまれます。

土木工事において「安易に考え、妥協する」ということがどれだけ危険か、非常に大事なことを学んだ工事でした。